

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 収集管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整担当 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,362 千円 (前年度予算額：8,362 千円)

<財源内訳>

(千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,362	0	0	0	0	0	0	0	8,362
要求額	8,362	0	0	0	0	0	0	0	8,362
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 県美術館では購入・寄贈等の作品等について、作家・作品の調査を行い、その成果を収集委員会に諮って収集委員からの意見聴取を経て収蔵している。
- ・ 新たに収蔵した作品の写真撮影、台帳の製作を行う。
- ・ 開館40周年記念事業開催に向けた柱となる作品収集のための国内外での調査が至急求められる。
- ・ 作品の保存・修復を計画的、継続的に行うことで、県有財産としての美術品を活用する。

(2) 事業内容

1 収集委員会の開催とそれに伴う準備

- ・ 収集委員会は館長が招集し、7人で構成、任期は1年。
- ・ 作品収集の調査旅費、寄贈者等への謝礼・感謝状に関する業務。
- ・ 収集する作品の搬送。

2 作品の保存修復

- ・ 生物生息調査、燻蒸（低酸素濃度処理）
- ・ 日常的な保存管理業務（装丁入替、フレーム修繕、アクリル交換など）
- ・ 野外彫刻の保守点検
- ・ 文化庁重要文化財取扱研修会出席
- ・ 修復する作品の修復工房への搬送

（3）県負担・補助率の考え方

県民の財産である美術品の収集管理事業であり、県の負担は妥当である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

（千円）

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	120	収集委員会謝礼（7名）、事前調査謝金
旅費	902	収集委員会費用弁償、美術品調査集荷立会い旅費、修復打合せ旅費、研修旅費
需用費	282	写真台帳消耗品、空気環境調査消耗品、生物調査消耗品
委託料	7,058	美術品梱包輸送、写真台帳作成、委員会準備委託、現地通訳、生物調査、燻蒸、野外彫刻保守点検、絵画修復、額縁調整、マット装丁
合計	8,362	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - ・美術館に所蔵する美術作品を選定するための収集委員会の開催。
 - ・収集した作品について、状態調査、修復保存、装丁、写真撮影等の管理。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

収集作品にかかる収集委員会の経費及び収蔵作品を展示するための修復保存業務であり、来館者数等の具体的数値と直接結びつく性質の事業ではないため、指標の設定が困難。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

収集委員の変更に伴い、新委員の調査、就任の打診等を行った。年度の下半期に収集委員会を開催（予定）、事前に作品調査、集荷、調査作成を行った。また翌年度の収集活動に向けて、作品調査等を行った。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

郷土作家や展覧会関連の作家作品の調査研究の成果により、当館の収蔵作品に関連の深い作品の寄贈依頼を受け、作品の集荷と調査を行った。次年度収集のためルドン作品の情報収集を行った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県の財産である収蔵作品の状態を維持するため、収集管理事業は不可欠であり、管理者である県が関与する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	郷土関係作家、ルドン・コレクションなど、岐阜県美術館の美術品収集の内容には定評があり、所蔵品で構成する展覧会に対しても県内外から高い評価を受けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	修繕工事と感染症対策を優先し、従来7月開催だった収集委員会を下半期の開催として、美術館全体の事業の効率化を図った。収集委員会のスムーズな開催に向けて調査研究、作品の集荷等を行った。また収集候補作品の選定について、部内の会議を複数回実施した。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>新たな収集委員として2名、日本を代表するルドン専門家と工芸分野の専門家に就任いただいたが、別の1名の委員（日本近現代美術の専門家）から本年度限りでの辞意を伝えられており、今後の作品収集に有益な情報を得るためにも、早期に新たな委員候補への打診と内諾を得ることが必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>リニューアルオープン後は県民の美術館に対する期待も大きく、県民の共有財産である所蔵品をより効果的に展示公開するためにも、新たな目玉となる作品の収集が必要である。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	